

るし、更らに最も悪いのは、改良主義組合のグラ幹共が、今日では全く資本家とグルになつてゐて、争議をやらせないことに、もしくは争議團を切り崩すことに浮身をやつしてゐるのだから、最初から餘ほど優れた戦略をたてゝかゝらなければ、全従業員を争議に起たせることや、それを最後まで結束させて置くことや、スキヤップを一人も會社へ入れないやうにすることや、彈壓をたくみにケ飛すことや、姉妹工場の労働者に、争議中の會社の仕事をボイコットさせることや、その他等々の目的を果すことは困難である。しかもそれらのうちの一つでもうまく行かなければ、敵の營業を停止させることは不可能なのだ。豫め、あらゆる場合を豫想して、それぞれの問題に對して充分の對策を樹てゝ置く必要がある。

(ト)ストライキの基本的闘争方針を樹てる上に今一つ重要なことは『敵の最も弱い點を突け!』といふことだ。資本家共には必ず何等かの弱點がある。見積書と異つたインチキ仕事をやらせてゐる工場なら、その點の暴露は相當にこたへる。かつて東京の建材社の争議にはその戦術が用ひられた。又、金融關係で會社が行きつまつてゐる場合なんか

のだ。
さうした場合やり方では、大抵は効果が分散的になり争議團は忽ち行き詰つて了つて、指導者連中は、その争議をどう進展させたいか判らなくなる、さうなると争議團員は、暗の中へひつぱり廻されてゐるやうな氣になつて了つて、指導部指令をだんく信賴しなくなり、争議團で寝ころんだり、あちらの隅、こちらの隅で、こそく悲觀話しを初めるやうになるのだ。

(ヌ)ところが、さうした場合に、指導者連中が自分達の指導方針の缺陷をタナへ上げて置いて、『この争議團の連中は非戰鬥的だ』とか、『この争議團の連中はドラランがない』とかといつたやうなことを言つてゐるのをよく聞か、もつての外だ。かういふ指導者に限つて、最後にはヤケクソな非計畫的なテロ戰術だ。そして争議團をペンヤンコにしてゐるのだ。そんなことをしたのでは労働者は決して戰鬥化しない。それどころか、争議にこりこりして了つて、二度と再び闘争に起たうとはしなくなる。労働者は血みどろの闘争が怖くなるのではなく、デタラメさが怖くなるのだ。(ル)最初優柔不斷のものでも、指導さへ適確なら、労働者

には、その點を衝くことも戰術的だ。かつて星製菓の争議の時には、——この争議は給料不拂ひが原因だつた——争議團が債権者會議を召集して、巧みにそれをリードして、會社をたゞのめした。その他、いろ／＼の場合があると思ふが、敵の最も弱い點を發見して、それを突くことは戰ひを勝利に導く要點だ。

(チ)その他、資金の問題や、家族動員の問題や、闘争擴大の方針や、等々、考へ得られるあらゆる問題に對して、明確なる對策を樹てゝかゝることは、ストライキ・リーダーの最重要の任務だ。基本的方針が樹つてゐない争議は、その日その日の戰術が分散的になつて了つて、敵に決定的打撃を與へることは到底出来ない。

(リ)だが、従來の大抵の争議は、この場當り式争議だ。だから、デモだとかピラミキだとか、暴露だとか演説會だとか(タリ)込みだとかといつたやうな戰術が、指導者の、その日その日の出來心か、さもなければ、争議團員のふとした思ひつきによつて敢行される急となる。(大衆のイニシアテイフは尊重しなければならぬが、指導部に基本的方針がたつてゐなければそれを有効に活かすことが出来ない

は必ず實質を發揮するやうになる。あの瀟灑の樂器争議を見よ!あれほど苦戦なあれほど長びいた争議ではあつたが、後になるほど段々になり、戰術的になつた『たへ』争議が慘敗に終つても、それは必ずしも指導者のみの責任だといふわけにはいかないが、争議團の意氣を消沈させて了つたとしたら、その責任は百パーセント指導者に在る』と或る同志は言つたが間違のない斷定だ。

(オ)如何なる場合にも、全體的に見通しの上に立つたストライキの基本的闘争方針を必ず立てろ!

四、争議團編成に關する方針

A 軍隊の組織と争議團の組織

(イ)ストライキは一種の戰爭である。したがつて、軍隊の編成方針と争議團の編成方針との間には、非常に共通點がある。

(ロ)例へば、軍隊の編成を見ると、一個聯隊の内部は三個大隊に別たれ、一個大隊の内部は四個中隊に別たれ、一個